

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【指扇北小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題>算数「数と式」での加減乗除の計算に関する正答率が低い。国語「主語と述語の関係」「敬語」に関する正答率が低い。</p> <p><指導上の課題>学習者用端末を日常的に活用する環境が十分でない。児童が反復・習熟に取り組む時間が十分でない。</p>	<p>⇒ スクールダッシュボードのアンケート結果等のデータを活用し、デジタルドリル等で個別最適な反復・習熟問題に取り組む場面を設定する。【毎単元末に実施】</p> <p>⇒ 自身の学習課題や学習の進め方を決める場面を設定する。【学びの指標の「学習課題をふまえて、自分が解決すること(到達目標や個人課題など)を、自分で決めていく」の質問項目において肯定的な回答の割合が80%以上】</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題>国語では、「文の構成」などの領域「書く」の正答率が低い。</p> <p><指導上の課題>授業内でのICTの活用や協働的な学習場面の設定に課題がある。</p>	<p>⇒ 単元の中でICT活用を基盤とした仲間と協力したり、仲間の考えを参考にしたりして自分の考えを表現する協働的な学習の場面を設定する。【学びの指標の「タブレットを使って、友だちといっしょに資料を作成したりコメントし合ったりしている」「自分で考えたりグループで発表したりするときにタブレットを使っている」の質問項目において肯定的な回答の割合が80%以上】</p>

⑤	評価(※)	調査結果	授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	児童生徒の 学力の向上
思考・判断・表現			結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>・国語の主語・述語の関係を探る問題に課題がみられた。昨年度の同調査でも同内容の正答率が低いことから、学校全体の課題といえる。解答類型を見ると、形式的に「誰が、何が」と判断し、文中の係りを捉えていない。文を構成する語句が増えたとさらに正答率が低下することが考えられる。</p> <p>・国語の「解答時間が足りない」という児童回答の割合が高く、無回答率が後半になると高くなる傾向がある。自己調整力や読む速さ、複数の資料から情報を選ぶなどの経験が不足していると考えられる。</p> <p>・算数では、角柱の「側面」などの用語の定義や体積等の求め方(公式)の理解、除数の計算のきまりの理解が不十分である。昨年度の同調査でも図形領域の構成要素や計算など基本的な内容の正答率が低いことから、学校全体の課題といえる。</p>	
思考・判断・表現	<p>・国語・算数ともに記述式の問題に課題がみられる。</p> <p>・国語の解答類型を見ると、特に複数の資料から必要な情報を見つけたり、条件に合わせて記述したりすることに課題がみられる。今後の授業で資料の文を基に、「事実」と「意見」「感想」や「心に残ったところ」と「その理由」を区別して表現することを重視したい。</p> <p>・算数の解答類型を見ると、条件に合わせた、複数の情報から必要な情報を抜き出し、式や表、図を関連させて表現することに課題がみられる。また、2つの数量の関係についての場面(どちらの速さが速いか)に応じた比べ方を使い、表現することにも課題がある。今後の授業で答えの求め方を筋道を立てて説明する機会を重視したい。</p>	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	<p>・「自分の学習課題や学習の進め方を決める」場面を設定することが、6割程度できた。今後も継続していく。</p> <p>・学年の実態や単元の内容によって、反復・習熟問題に取り組む場面を設定することができないことがあった。</p> <p>・データの活用を進めていくことに課題がある。</p>	<p>・デジタルドリル等のデータを把握し、個別最適な反復・習熟問題に取り組む場面を設定する。【毎単元末に実施】</p> <p>・自分の学習課題や学習の進め方を決める場面を設定する。【学びの指標アンケートの「学習課題をふまえて、自分が解決すること(到達目標や個人課題など)を、自分で決めていく」の質問項目において肯定的な回答の割合が80%以上】</p>
思考・判断・表現	B	<p>・仲間と協力したり、仲間の考えを参考にしたりする協働的な学習の場面を設定することができた。</p> <p>・タブレットの使用については、学年の実態に合わせて段階的に使用している。</p> <p>・児童は、「タブレットを使って、友だちといっしょに資料を作成したりコメントし合ったりしている」「自分で考えたりグループで発表したりするときにタブレットを使っている」の肯定的な回答が6割以上となっている。</p>	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)